

番傘川柳本社 10月句会

日時 令和6年10月6日(日)
 会場 たかつガーデン
 出席……………49名
 司会……………西上遊二
 呼名復唱……………中岡千代美
 記名・清記……………西美和子

本日は十月というのに蒸し暑い。夜句会のせいで出席者が少なかった。昨日5日は第30回川柳塔まつり「川柳雑誌・川柳塔100周年記念川柳大会」で盛会でした。田中新一主幹は、兼題「穏やか」の選を務められました。番傘から三十人近くお祝いに出席しました。例会は、主幹の挨拶から始まりました。挨拶の中で二〇〇八年番傘一〇〇年大会の年の事話された。400年の長きにわたって大阪の賑わいを見守ってきた大阪道頓堀一戎橋が新しく架け替えられ、

その橋の南北両端に設置される銘板に、岸本水府の句が刻まれた事になった。北側には、小出樞重画伯の絵と共に戎橋白粉紙を散らす恋水府の句が刻まれ、南側の「戎橋銘文」には橋の由来と句が3句刻まれている。グリコの看板と共に大阪の名所の一つとなりました。法善寺横丁にも、水府や西田當百の句を見つけることができます。是非皆さんもお出掛け下さい。SNSで情報発信すればインバウンドの方も注目してくれるかも…。

席題 酔 う 古川 洋子 選

ノンアルも酒と思えば酔うてくる 銭谷まさひろ
 ボジョレーの硬さ甘さに酔いました 中岡千代美
 酒が言わせた口説き文句に縛られる 柴田 桂子
 まだ巨人ファン四年ぶりです旨い酒 物種 唯修
 十五夜に酔い眠るのが惜しくなる 岩田 明子
 一本のタクトが振るう音に酔う 田中 新一
 月に酔いあなたに酔った若かった 鈴木 栄子
 また酔ったああ良い気分男だぜ 池田 武彦
 ここからは酒が喋っているのです 井本 健治
 ぬぎすてて心酔させる水府の句 原田 正士
 屋台酒酔えばおけさを唄いだす 油谷 克己
 酔っていても家にはちゃんと帰ってる 小上 元武

ほとほと手を焼くベロンベロンの女 島田 握夢
 酔った振り嫌な話は聞きません 山藤 聖子
 熱唱にもっと酔いたいアンコール 大塚のぶよし
 酔うたふりこ一番の賭けでした 桑原すゞ代
 一人では酔えぬ私の滑走路 前中 知栄
 酔うてたで済めん事をしてしまふ 正信寺尚邦
 船酔いに釣りそっちのけ死ぬぬい 本田 智彦
 酔うてしか言えないわけのエトセトラ 大西 将文
 一冊の本読み終えて酔い覚ます 田中 新一
 風さやか秋の新酒にほろり酔う 森 廣子
 雲囲気に酔うてあなたの腕の中 油谷 克己
 光る君さまに魅せられております 岩田 明子
 かなり酔っていましたおぼろ月でした 片岡 加代
 無礼講についつい乗って嵌まる畏 神田 良子
 緊張をほぐす薬はお酒です 山藤 聖子

女子会の飲むや歌うや泣きたすや 桑原すゞ代
 心斎橋人混みに酔う歩けない 物種 唯修
 ヒロインの余韻のまんま暮おりの 小川賀世子
 六甲おろし熱気に酔って我が家まで 松本 証子
 ほろ酔いの酒はふふわ夢心地 柴田 桂子
 魔法解けぬまんまヒロインのまんま 小川賀世子
 大仏様は芋焼酎が好きらしい 西澤 知子
 酔うほどに少女のようになる妻だ 古川 洋子

宿題 詩 八木 幸彦 選

お月さまきれい幼児の一行詩 白井 箏子
 居酒屋の廁の壁にみつをの詩 原田 正士
 自分史を詩集でまとめ茜雲 下林 正夫
 枯れ葉舞うベンチ私はもう詩人 小川賀世子

逆境にふつと零れた詩がある
 詩も作り歌も好きだと文科系
 生きるとは問いかけてくる人間詩
 短くもたく生きたい中也読む
 一点を見つめるそこに風の詩
 A Iの歌にポエムは宿らない
 ロッキングチェアはちよとした詩人
 詩ごころくすぐるように星が降る
 止まり木のワイン詩情をかき立てる
 杜甫の詩語んじ晴らす気のふさぎ
 原点にハチローの詩がいつもある
 母ちゃんの笑いが詩になつて
 月さやかいつもの道に満つ詩情
 すらすらと詩をしたためている色紙
 春夫なら今の秋刀魚を何と詠む
 水割りの水鳴らして詩を誘う
 詩心が湧き涙ぐむ一人旅
 牧水の詩に憧れたいい時代
 落ちこんだ時は詩集へかくれんぼ
 人混みのなかから拾う風の詩
 詩となつて言葉が熱を帯びてくる
 秋の道俄か詩人とシャンソンと
 折れそうになるとみすゞの詩にすが
 酒飲めば川中島の出だしだけ

柴田 桂子
 小寺八重子
 田中 新一
 西 美和子
 穂山 常男
 大西 将文
 西澤 知子
 湯澤 孝扇
 銭谷まさひろ
 吉富ひろし
 片岡 加代
 前中 知栄
 松本 柎子
 古川 洋子
 岩田 明子
 田中 薫
 大堀 正明
 仕田原恒雄
 銭谷まさひろ
 穂山 常男
 田中 新一
 大西 将文
 大塚のぶよし
 吉富ひろし

砂浜の素足啄木口吟む
 ほろ苦いポエムに浸る屋台酒
 良い友を得たと感謝の詩を綴る
 夢追いの人それぞれにあるポエム
 枯れ葉散るみんな詩人になりました
 ちっけな夢捨てきれずまだ詩人
 音痴だが心の中に詩がある
 油谷 克己
 北川ヤギエ
 前中 知栄
 桑原すゞ代
 神田 良子
 桑原すゞ代
 八木 幸彦

宿題 からからかう 柴田 桂子 選

高齢者をからかわないでQR
 詐欺電の優しさにもう三時間
 三日月にからかわれてる膝がしら
 デジタルにからかわれてるまたエラー
 からかったカラスの返り討ちにあう
 アウトコースへからかって来るスライダー
 からかいの棘を含んだ声痛い
 からかっていたらいつしか恋となる
 今更にからかわないでプロポーズ
 からかっただけと言うけど泣いた跡
 イケメンすぎてからかいもなくなる
 からかって泣かせてみたい好きだから
 おちよくられ上ったハシゴ外される
 警察の無能からかうモンタージュ
 銭谷まさひろ
 桑原すゞ代
 古川 洋子
 岩田 明子
 片岡 加代
 物種 唯修
 湯澤 孝扇
 田中 利一
 中岡千代美
 片岡 加代
 西 美和子
 山藤 聖子
 神田 良子
 正信寺尚邦

男同士で手を組んでヒューヒュー
 あなたのちよっかいは愛の裏返し
 半分は本音だよシャイな人
 ドライアイ泪の味も忘れたわ
 からかったことが最初の縁でした
 リハビリの箸豆粒にからかわれ
 ワインの力借りて軽口叩き合う
 気まぐれにおちよくられる首っ丈
 目玉焼き僕の目玉はつぶれてる
 妻からかい晩酌のアテ出てこない
 焦るほど私をなぶる針の穴
 ちよっと色気出し過ぎました心電図
 はじまりはからかいイジメ忍び寄る
 度の過ぎたからかい悲劇起きるかも
 我が短所褒めてくるから憎らしい
 夜店の指輪遊ばれてても嬉しくて
 戦力外にされそうな僕である
 飲めないが酒の肴になってやる
 励ましの言葉からかうように言う
 人間もたまに蛇になり驚かす
 掴まえてごらんとチャンス身を躲す
 樋浦 桜竜
 原田 正士
 小川賀世子
 桑原すゞ代
 八木 幸彦
 北川ヤギエ
 松本 柎子
 島田 握夢
 西澤 知子
 西上 遊二
 大塚のぶよし
 井本 健治
 神田 良子
 油谷 克己
 田中 新一
 中岡千代美
 西澤 知子
 松本 柎子
 田中 新一
 本田 智彦
 柴田 桂子

宿題 魂

大西 將文 選

魂が今年は暑い言うてます
 目を見たらアカン魂抜かれます
 魂を売った買ったと姦しい
 魂も疲労困憊寝ています
 魂を洗うと君も真っ黒け
 魂を掴まれそうな仁王の眼
 ニワトリの魂つまる焼き鳥屋
 AIが魂持てば怖ろしい
 魂のガンソリン秋は爛がいい
 魂にもエステ写経をして糺す
 魂を売れば昭和の恥になる
 魂を冷やす地球の温暖化
 墓終いご先祖浮遊霊になる
 魂にずしんと響く匠の語
 魂の叫び届かぬ核の闇
 死の商人魂売って銃を売る
 原爆が魂魄さえも焼き尽くす
 魂も途方に暮れる墓終い
 千枚田精魂込めた稲たわわ
 夫介護誠心誠意尽くしたが
 老いたとて大和魂なら今も

三好 聖水
 中岡千代美
 下林 正夫
 柴田 桂子
 原田 正士
 森 廣子
 西澤 知子
 西上 遊二
 田中 薫
 正信寺尚邦
 片岡 加代
 白井 笙子
 正信寺尚邦
 小川賀世子
 井本 健治
 原田 正士
 吉富ひろし
 島田 握夢
 田中 薫
 山藤 聖子
 片岡 加代

三つ子の魂に鮮明な記憶
 魂の叫び戦地に渦を巻く
 エールとパワー送ろう能登へ鎮魂歌

古川 洋子
 湯澤 孝扇

群青の海の底から鎮魂歌
 シャンソンにちょっと魂ゆさぶられ
 チリメンジャコも魂を持ってます
 魂が抜けて人間やめました
 魂の発露反戦句を作る
 魂を込める言葉が歌いだす
 奪還に燃える魂色は赤
 魂が乾いて虹をもう見ない
 入魂の仏の頬に紅が差す
 魂はピンクで生きる魔女として
 バッカスに萎えた魂叱咤され

銭谷まさひろ
 穂山 常男
 小寺八重子
 西 美和子
 下林 正夫
 油谷 克己
 田中 新一
 仕田原恒雄
 穂山 常男
 湯澤 孝扇
 西 美和子
 大西 將文

宿題 頼

岩田 明子 選

ボランティアに頼るしかない能登惨事
 パイン飴もう貴方には頼れない
 遠い親戚より駅前のアコムです
 親ガチャで親は頼れず自分だけ
 頼るのは医者と薬と神とけ
 セコムよりドーベルマンを飼ってます
 いざの時緊急機器のボタン押す

小上 元武
 前中 知栄
 正信寺尚邦
 下岡 昌美
 大西 將文
 片岡 加代
 北川ヤギエ

だいじょうぶ臓器はみんなまだピンク
 亡くなって頼り甲斐ある人と知る
 カタカナ語頼りにしてる電子辞書
 アドバイスはええから現金を頼む
 頼りになるひと言葉あたししか居ない
 カーナビに頼りすぎたかけもの道
 頼られて母は呆けてはおれませんが
 マッチングアプリに頼り恋成就
 頼りない僕を頼ってどないする
 AIより第六感を信じてる
 ご近所のお陰でひとり居を通す
 運転をオートに頼り切る恐さ
 生きものすべておてんさんか頼りです
 朝顔は竹により添い今日も咲く
 寂しさを紛らす酒が増えてくる
 頼られて男一匹逃げまどう
 神様もそんな願いは聞かせせん
 保険証はいつもバッグに入れてある
 俺は男だ飛び道具には頼らない
 頼られてよし老骨にムチを打つ
 マイナカードは頼れませぬ総理殿
 海馬よりグーグルさまに頼ります
 あなたよりもっと頼りになるネット
 一つの日も最後に頼るのは自分

桑原すゞ代
 油谷 克己
 西上 遊二
 島田 握夢
 三好 聖水
 銭谷まさひろ
 小川賀世子
 原田 正士
 物種 唯修
 柴田 桂子
 鈴木 栄子
 八木 幸彦
 原田 正士
 森 廣子
 田中 新一
 大西 將文
 井本 健治
 北川ヤギエ
 中岡千代美
 三好 聖水
 森 廣子
 銭谷まさひろ
 中岡千代美
 八木 幸彦

独身を通すお金を貯めておく
あと三秒あと一秒に頼ってる
最後の最後やっぱり紙の広辞苑
しっかりと握り手摺と仲が良い

宿題 ずれる 片岡 加代 選

干支二回りずれてこの服今流行
言ったことやることずれてます総理
ずれ込んだ工事万博焦りだす
二、三行ずれて読んでも気付かれず
社説の視点が少しずれている
相槌がずれる本音は真正直

与野党の議論所詮はかみ合わせ
政治屋に庶民感覚解るまい
どうしてもヒントがずれる齡です
昼と夜ずれたことない過疎の里
早期発見心のずれも床ずれも
子と親のずれる話は割り切ろう
時代からずれてあっけらかん通す
回転寿司でチーズケーキを食べている
立ち位置をずらして避ける風当たり
ああ言えはこう言う妻に酒を注ぐ
思惑が微妙にずれてよう揉める

夏痩せかパンツずれそうそして秋
少し視点ずらすと君が光りだす
歳時記が日本の四季に狼狽える
半音を下げて地道な恋をする
ちよつとずれるそんな気がするその意見

列島の季節がずれていく猛暑
一呼吸置いた返事で意味不明
時代から少くうずれて生きてます
父と母の言うことどちら信じたら
よれよれでパンツもボクもよくずれる
的外れは歳のせいだと言っておく
表札も歪んだままで出世せず

小川賀世子
松本 柎子
正信寺尚邦
柴田 桂子
物種 唯修

八木 幸彦
下林 正夫
田中 螢柳
北川ヤギエ
大塚のぶよし
白井 笙子
正信寺尚邦

黄昏で暮らしのテンポずれたまま
バックスが戻してくれたずれた仲
ホームズは本棚のズレ見過ごさず
食い違う思いで恋の仲違い
少しずつ阿吽がずれてさようなら
赤いバラ一つ足りないものがある
内緒ですがずれていますよアデランス
酔眼朦朧ボタンの穴が足らんがな
最後までずれてる話日向ぼこ
手術終えてもやっぱり月が二つある
少しずつずれて仲よくなれました

森 廣子
田中 利一
井本 健治
古川 洋子
井本 健治
島田 握夢
三好 聖水
森 廣子
片岡 加代

令和6年度 やまと番傘川柳社 忘年句会

賑やかな忘年句会です。投句も受け付けますのでどしどしご参加下さい。

と き 12月7日(土) 11時開場(昼食各自で)

と ころ 大和高田市天神社
JR和歌山線「高田駅」東側出口徒歩5分
近鉄大阪線「大和高田駅」から南へ15分

題 (各題2句) 題と選者は抽選で決定。

忘け者・半分・バトル・銀・ついで
素敵・八・こわす

選 者 お客様・坂本高士・菱木誠・柴田園江
吉井テイ子・細田貴子・那須鎮彦・生駒さとし

賞 優勝 個人の部 団体の部

出句締め切り 12時(懇親宴あり)

会 費 1000円(投句料も同じ)

投 句 先 〒634-0831

橿原市曾我町729-18 西澤知子まで

投句締め切り 11月29日必着(用紙自由)